

岡病防第1号
令和4年4月6日

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について
病害虫発生予報第1号を下記のとおり発表したの送付します。

令和4年度病害虫発生予報第1号

令和4年4月6日
岡山県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量	作物名	病害虫名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	やや早	並	タマネギ	べと病	—	やや多
モモ	灰星病 カメムシ類	やや早 やや早	並 少	イチゴ	ハダニ類	—	やや多
イチゴ トマト ナス	灰色かび病	—	やや少				

1 普通作物

(麦類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 **やや早**

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 岡山県農林水産総合センター農業研究所の麦作況試験の調査では、麦の生育は平年よりやや早く推移している。

イ. 3月31日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

- ア. 本病の第一次伝染源である子とう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が 13℃以上で降雨の直後である。子とう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が 15℃以上でかつ、日最低気温 10℃以上、湿度 80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、子とう殻形成および子とう胞子飛散好適日は 3月中旬から見られた。
- イ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。
- ウ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が 10,000 粒中 5 粒以上混入すると「規格外」となる。
- エ. 令和 3 年度植物防疫情報第 9 号（令和 4 年 3 月 29 日発表）「麦類赤かび病の防除の徹底について」参照。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期 **やや早**
発生量 並

予報の根拠

- ア. モモの開花時期は、平年よりやや早い。
- イ. 3月31日発表の1か月予報によると、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) カメムシ類

予報内容

発生時期 **やや早**
発生量 少

予報の根拠

- ア. 3月31日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高いとされており、発生をやや助長する条件である。
- イ. 4月～7月のチャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ予察灯飛来数は、前年2月～5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数との間に高い正の相関がある。岡山県における昨年2月～5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数は、南部で少なかった。
- ウ. 花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯（赤磐市）への飛来予測数はチャバネアオカメムシが 75.0 頭（平年 321.4 頭）で平年より少なく、クサギカメムシが 13.5 頭（平年 41.4 頭）で平年より少ないと予測される。

3 野 菜

(1) イチゴ、トマト、ナスの灰色かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月4日の巡回調査によると、ナス及びトマトでは発生を認めず、いずれも平年（ナス：4.0%、トマト：55.8%）より低く、イチゴにおいても12.5%で、平年（20.4%）よりやや低かった。

イ. 3月31日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

(2) タマネギベと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月4日の巡回調査によると、発生圃場率は63.6%で平年（32.1%）よりやや高かった。

イ. 3月31日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高く、降水量は平年並か少ないとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月4日の巡回調査によると、発生圃場率は62.5%で平年（48.0%）よりやや高かった。

イ. 3月31日発表の1か月予報によると、気温は平年並か高いとされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

